

# NAIS Journal Vol.20

## 発刊に際して

一般社団法人日本応用情報学会会長

高 弘 昇

京都情報大学院大学 教授



情報技術 (Information Technology; IT) がいろいろな分野で積極的に使われている現代の社会において、社会が抱えている多様な問題を解決するため、ビッグデータを活用する IT 技術の進歩は急速に進んでいます。特に、最近世界的に話題になっているジェネレーティブ (Generative) 人工知能 (Artificial Intelligence; AI) の開発が活発に展開されています。

人工知能 (AI) については日本でも興味を持つ人が益々増えていますが、その正体については何となくイメージは持っていますが、その仕組みについては詳細に理解している人が多くないと思います。一般的に、人工知能 (AI) は人間の知能をコンピュータで実現するため、プログラミング、データ構造、アルゴリズムなどの IT 技術を使い、新たな規則性や価値を見いだす科学的な技術であるといわれています。

現代の社会を激変させる人工知能 (AI) の技術は社会を進化させる強力なエンジンとして、生活、仕事、産業、そして社会全体にその影響が及んでいます。

また、人口減少や少子高齢化、ニューノーマルな社会の形成に対応するため、自律化、知的望遠鏡、知的介助などの3つの役割を果たしているといわれています。

同時にビジネス全般においてはデータ入力や顧客対応などの単純作業を人工知能 (AI) によって自動化することでコストを削減するだけでなく、人工知能 (AI) が生産性を向上させ、ビジネスの効率化が期待されています。また、少子化と高齢化による労働力不足を解消させてくれると思われています。

従って、あらゆる産業分野のビジネス環境から発生する急激な変化に対処するためには、人工知能 (AI) などの IT 関連技術を変化の状況に合わせて開発し、適切に展開させていく必要があります。

言い換えれば、現代の情報化社会では多様なビジネス問題に対する解決策を見つけ出す創造的な力量を備えるためにも人工知能 (AI) の技術は必要となります。最近、多様なビジネス分野において、ビッグデータなどを活用できる能力を備えている人材が要求されています。今後の情報化時代の多様な分野において、このような革新的な力量を身に付けた人材の代わりに人工知能 (AI) が未来志向的に必要不可欠な実践として問題の解決に寄与できるものと考えられます。

グローバルな社会の情報化環境において、データサイエンス分野での人工知能

(AI)などの必要なIT技術の発展は持続的に行われていきます。特に、未来志向的な情報化社会では常に必要な情報にアクセス可能な環境の下で社会的各種ビジネス問題に対する対処能力としてIT技術は持続的に必要に応じて開発されていくと思われま

現在のビジネス環境において大きな影響を及ぼしているデータサイエンス、人工知能(AI)、モノのインターネット(Internet of Things; IoT)などのIT関連技術が第4次産業革命に沿って互いに密接に関連しながら大きなビジネス効果を生み出していることから大きく注目されています。その反面、企業は激しいビジネス競争環境において、競争優位に立つための関連IT人材の確保、関連IT技術の確保、関連ビジネス情報の獲得などの対応に追われています。また、ビジネスにおける産業構造が製造業からソフトウェア・サービス産業へと急速に移行することにより、情報の応用分野も必要なIT人材が大きく不足しています。すなわち、多様化していく情報関連ビジネス環境に対応できる核心的なIT人材を確保するためには必ず実践的な情報関連育成訓練に重点を置いた教育を展開する必要があります。

一般社団法人日本応用情報学会(Nippon Applied Informatics Society; NAIS)は社会の各分野で適用・応用されていくIT関連技術の発展のため、日本国内で専門誌NAIS Journalの発行、IT関連研究会・セミナー開催などの多様な活動展開を通じて応用情報技術の普及に渾身の力を込めるだけではなく、実学志向的な実践団体の産学学会としてその役割を果たしてきました。共に、日本応用情報学会は、実務系団体と緊密な連携を持ちながらデータ分析を中心にしたデータサイエンス関連などの技術開発活動を行い、グローバルビジネス環境において企業が必要とする人材の育成に力を入れてきました。また、情報技術を取り巻くビジネス環境に役立つ有用な情報を関係研究者、産業界の技術者などに発信すると同時に、産学専門家が研究開発し実装した成果物を関係する多くの人々に示す場を提供するため、専門誌であるNAIS Journalを産業界に積極的により幅広くオープン化して発刊しています。

日本応用情報学会はこれからも産学学会として各分野における実学志向的な応用情報技術に関わる多様な活動の内容及び成果物を多くの関係者にウェブサイトとNAIS Journalなどを通じて発信し、有効的に共有していきます。また、研究・実践活動で発生しうる様々な応用情報技術課題に対応可能な関連情報を積極的に発信し続けていきたいと考えています。

今後も日本応用情報学会は応用情報技術により急速に変わり続ける厳しいビジネス環境において、企業が必要な競争力を基に持続的な成長ができるようにデータサイエンス、人工知能(AI)、第4次産業革命に関わる人材育成、応用情報システムの研究、開発及び実践に積極的に貢献していきたいと考えています。